

銀の鬼〈第八卷〉

茶木ひろみ



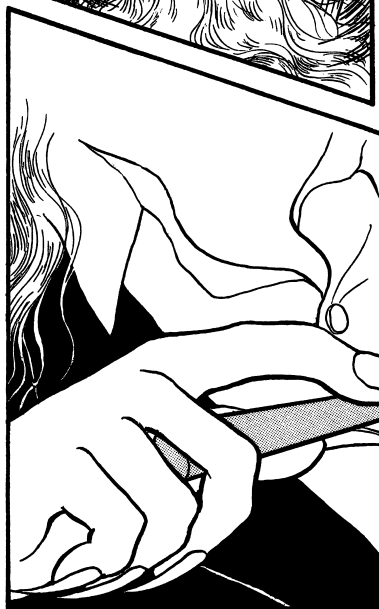
十年^{とね}っ

十年^{とね}っ

いや



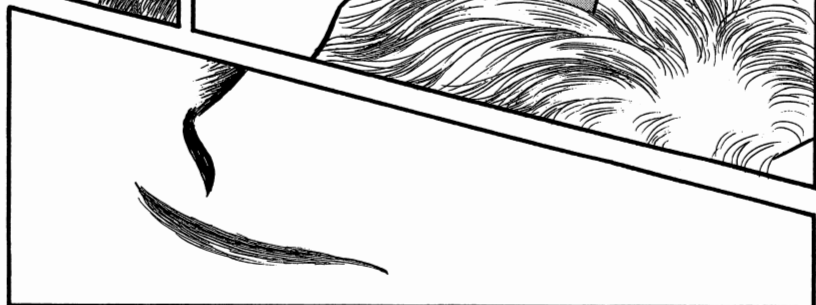
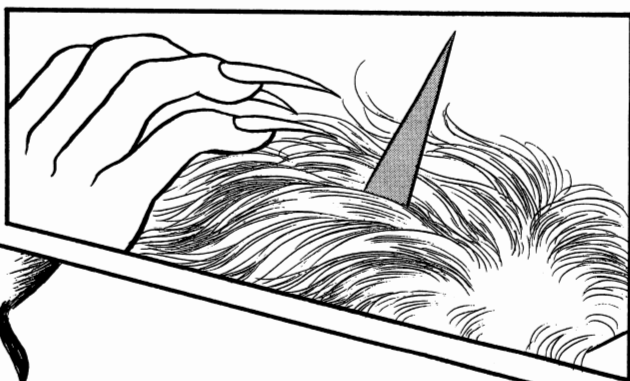




あの
青いツノ

あ…





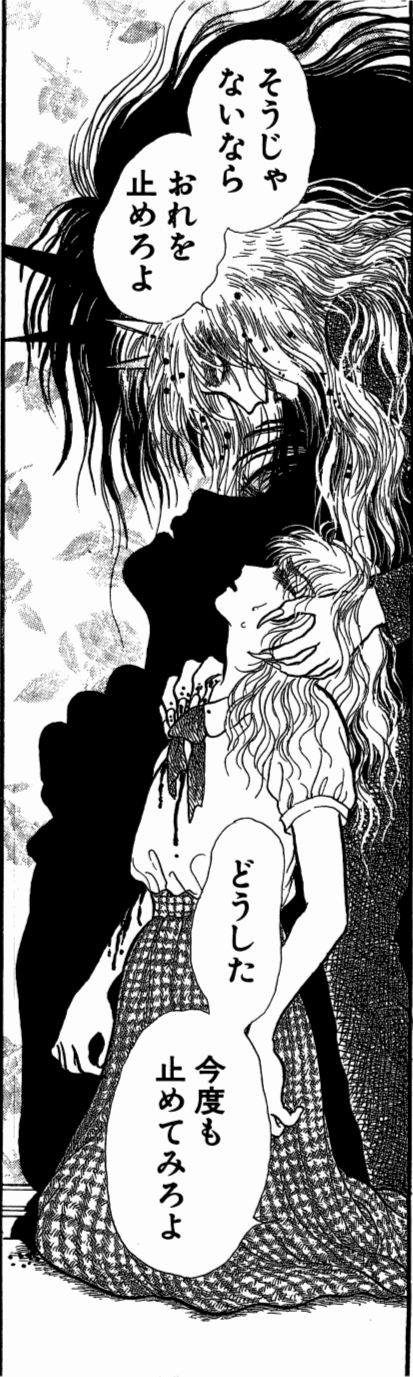
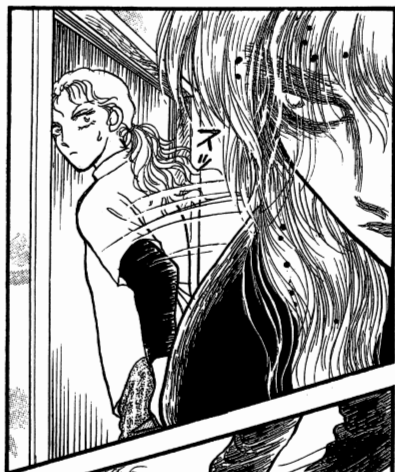


鬼

完全復活——!!

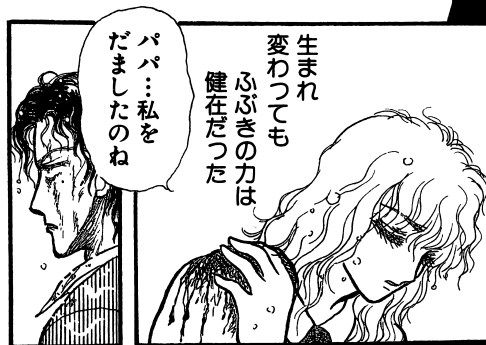








わ
ふぶき
ふぶき
大丈夫か!?



おれが ぶぶきに
言われて
コップの水を
ぶぶきと流也に
かけて
死んでるようだった
流也がムクリと
起き上がった時



何てことだ
その顔から胸に
かけての傷は
もう治りかけてた

そうだった
昔の...青い鬼の
館での出来事の
再現だ



だったら

おまえは
どうなん
だ？

おまえのは
あの鬼への
本当の愛だと
言えるのか！？

19年前
自殺したのだった

今助けて
もらつていて
何てこと言う
んだよ！？

見ろ ふぶきは
自分のケガは
治せないんだぞ

いつだって
自己犠牲なのに
…それを
きたねーぞ

ふぶき帰ろ
こんなやつ
ほつとして
大丈夫だよ

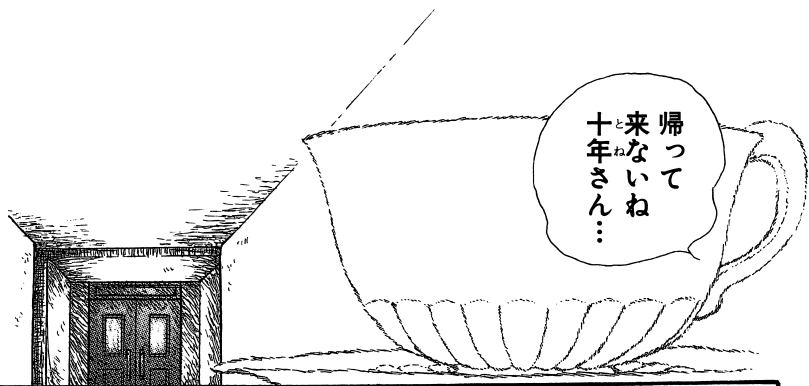
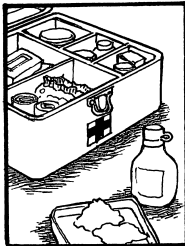
流也りゅうやおまえ

そうすれば
永遠にあいつに
想われ続けるって
計算がなかったと
言えるのか！？



もう朝
だった

うずく傷を
押さえながら
近松くんと
お葉子の
家に
帰ったら



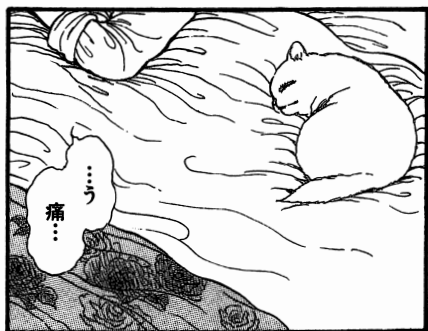
帰って
来ないね
十年さん…



二人とも
何も
話さず

昼が過ぎ…

夕方になって
近松くんは
いちおう
自宅に
帰った



19年…
こんなに 長く…私は 何をやって きたんだろう

十年のことを 忘れて… 今までよく 生きてこれた ものだ

やっと 思い出した 時には

たった一本の 青いツノの せいで

一瞬で あんな事になるなんて

愛なんて もろいよな ふぶき…



これは…

この4日間
十年はずっと
優しかったのに
とけそうに
優しかったのに

どこかで
拒んでいた
私への罰

気づいた時には
十年は行ってしまった

十年

十年

十年

……を捨てろ

今…誰かの
声がした
ような…

…十年？

愛を…
捨てろ

早く帰って
来て

今いつたい
何してる
の!?

殺さないで
誰も…

いや
おまえが今は
愛と呼んで
いるものを

…捨てろ

ううん
声…のような
そうじゃない
ような

それとも
これ…
夢なの？

愛を…
何ですって

鬼はそれを
持つ者を
憎悪し

殺す
からだ

あの
恐怖の鬼を
動かして
邪悪と戦え

それが
おまえの天職

無になれ

そうすれば
うまくいく

彼を
コントロールする
ことができる

天…職

だから
おまえの
心の中にある

島影^{とね}十年への
想いのすべて
を……

愛を
捨てろ！